にしました。

「草地おどり」は徳川8代将軍吉宗公の時代に、農民の間で娯楽として広まった踊りといわれています。当地では保存会や後援会を立ち上げ、地域を挙げて守り育てている芸能です。1933年に東京で開かれた「第7回郷土舞踊と民謡の会（現・全国民俗芸能大会）」で優勝したことから全国的に注目を浴びるようになりました。その後、大阪やアメリカ、上海での万国博覧会、ホノルルフェスティバルなど多くのイベントに参加し、87年には大分県選択無形民俗文化財に指定され、2018年には全日本郷土芸能協会から「特別表彰」を受けています。

今回、この地域を代表する郷土芸能を顕彰するため、会員をはじめ市長ならびに関係者と共に、3月12日、草地おどりブロンズ群像の除幕式を開き、地域に寄贈することにしました。

## 留学生による日本語作文コンクール

大阪鶴見ロータリークラブ
第2660地区・大阪府

3月4日、大阪日本語教育センターで「第27回大阪鶴見ロータリークラブ日本語作文コンクール」の表彰式を開きました。このコンクールの発端は1989年、クラブが当地区のインターシティーミーティング第6組のホストクラブになったこと。その年、関西の5つの大学と大阪日本語教育センターの留学生計35人とロータリアン300人が一堂に会し、「留学生問題を考える」をテーマにバズセッション（グループ討議）を行ったのを機に、クラブ独自の国際交流基金を立ち上げ、クラブ創立10周年を迎えた94年、その基金を原資として日本語作文コンクールをスタートしたのです。

表彰式に臨む留学生を前に、会長があいさつ

コンクールは大阪日本語教育センターの留学生を対象に、初級、中級、上級に分け、テーマは自由、原稿は自作かつ自筆で未発表のものに限ります。今回は初級31人、中級21人、上級26人の計78人が参加し、そのうち初級6人、中級4人、上級3人を表彰しました。最優秀受賞者はミャンマー出身のボン・テェザー・チョーさん。作品はいずれも秀逸で、自筆の文字も美しく、日本人の私たちが大きな感銘を受け、思わず涙ぐむものさえあります。

歴代の受賞作品は、当クラブのウェブサイト（左記）に掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

http://rc-osaka-tsurumi.jp/

## プロバスケ観戦に地元の子どもたちを招待

2730ジャパンカレントロータリーEクラブ
第2730地区

当クラブは2月14日、姶良市で開催されたプロバスケットボール・鹿児島レブナイズのホーム試合に、地域の小中学生118人と保護者、および指導者を招待しました。プロ選手のプレーを見ることによって、挑戦する力、挑戦に真摯（しんし）に向き合う姿勢、将来、困難にも立ち向かえる姿勢を子どもたちに学んでもらうことが目的です。

試合は接戦となり、残り数秒でレブナイズが逆転し、100対99の劇的なホーム初勝利。新型コロナの感染防止対策で声を出して応援できない中、両手を上げ、立ち上がって勝利を喜ぶ子どもたちの姿が感動的でした。

地元の子どもたちの応援が勝利を後押し

声はなくともハリセンで応援した音がチームを後押ししたようで、レブナイズ関係者から「最後数秒で逆転できたのは会場からの大きな応援があったからだ」とのコメントがありました。

当クラブではそろいのジャンパーや横断幕、のぼりなどを、今回のために初めて準備しました。同じジャンパーを着ることで統一感も出て、横断幕も含めロータリーの事業だ、ということが広く知られる結果となりました。児童生徒へのアンケートで、初めてロータリーのことを知ったという人が47％もおり、若い世代にロータリーを知ってもらえる良い機会になりました。

（松岡高史・記）